

令和4年 第2回全員協議会会議録

令和4年2月22日 議員控室

○事 件

町長報告事項

- (1) 令和4年度予算概要について（財務課）
- (2) 特定政策（ウイスキー）事業について（政策推進課）
- (3) 八雲町教育委員会教育長の任命について（総務課）
- (4) 上八雲地区ふ化施設の概要について（産業課）

○出席議員（14名）

議長 千葉 隆 君
赤井 睦美 君
横田 喜世志 君
関口 正博 君
倉地 清子 君
牧野 仁 君
斎藤 實 君

副議長 黒島 竹満 君
佐藤 智子 君
大久保 建一 君
宮本 雅晴 君
三澤 公雄 君
安藤 辰行 君
能登谷 正人 君

○欠席議員（0名）

○出席説明員（12名）

町長 岩村 克詔 君
教育長 土井 寿彦 君
財務課長 川崎 芳則 君
財政係長 南川 達哉 君
政策推進課長補佐 上野 誠 君
産業課長 吉田 一久 君

副町長 成田 耕治 君
総務課長 竹内 友身 君
財務課長補佐 横田 盛二 君
政策推進課長 川口 拓也 君
政策調整係長 右門 真治 君
水産課長 田村 春夫 君

○出席事務局職員

事務局長 三澤 聡 君
庶務係長 松田 力 君

事務局次長 成田 真介 君

◎ 開会・議長挨拶

○議長（千葉 隆君） それでは多少早いんですけれども、全員揃っておりますので、全協を開催したいと思います。議長挨拶は割愛したいと思います。

◎ 町長報告事項

○議長（千葉 隆君） 町長報告事項の（３）の所管が学校教育課となっておりますが、総務課の関係でございますので、訂正をお願いいたします。

それでは、町長報告事項（１）令和４年度予算概要について、財務課のほうからご報告をお願いいたします。

○財務課長（川崎芳則君） 議長、財務課長。

○議長（千葉 隆君） 財務課長。

○財務課長（川崎芳則君） それでは、財務課のほうから報告をさせていただきます。

令和４年度予算の審議につきましては、来月３月９日開催予定の第１回定例会が控えておりますが、その予算概要がまとまりましたので、担当補佐からご説明させていただきます。

○財務課長補佐（横田盛二君） 議長、財務課長補佐。

○議長（千葉 隆君） 財務課長補佐。

○財務課長補佐（横田盛二君） それでは令和４年度予算概要について、特徴的な事項を中心に説明させていただきます。

資料２ページをご覧ください。資料２ページは、八雲町の各会計予算の規模を表に示したものであります。

一般会計、特別会計、企業会計を合わせた全会計の予算規模は、287 億 5,509 万 4 千円で、前年度対比 4 億 8,891 万 1 千円、1.7%の増であります。

一般会計の予算規模は、144 億 3,900 万円で、前年度比 3 億 700 万円、2.2%の増であります。

続きまして、資料の３ページをご覧ください。上段が一般会計歳入内訳と、下段が歳出 性質別内訳であります。

歳入の特徴的な事項としまして、町税は、19 億 8,116 万 2 千円で、過去の実績及び地域経済の動向を勘案し、前年度対比 2,854 万 5 千円、1.4%の減であります。

地方交付税は、地方財政計画を考慮し、52 億 706 万円で、前年度比 3 億 5,440 万 4 千円、7.3%の増であります。

また、交付税振替財源として臨時財政対策債を含めた実質的な地方交付税の総額は 53 億 706 万円で、前年度対比 2,340 万 4 千円、0.4%の増であります。

国庫支出金は前年度対比 25.5%増の 11 億 919 万 7 千円、道支出金は前年度対比 0.6%増の 6 億 9,044 万円で、各種施策事業の執行予算に対応した計上であります。

繰入金は、内訳としまして、ふるさと応援基金 21 億 4,435 万 6 千円、森林環境譲与税基金 2,387 万 9 千円のほか、財源不足に対応するため、財政調整基金 2 億 5,000 万円、合計で 24 億 1,823 万 5 千円の繰入であります。

町債は、3 億 9,780 万円で普通建設事業に対応したほか、臨時財政対策債として 1 億円の計上であり、前年度対比 6 億 6,480 万円、62.6%の減であります。

次に歳出であります。人件費は、前年度対比 0.7%増の 25 億 3,196 万 8 千円、物件費は、前年度対比 16.1%増の 24 億 3,247 万 3 千円、維持補修費は、前年度対比 2.7%減の 2 億 9,782 万 7 千円であります。扶助費は、障がい児通所等給付費などから、前年度対比 2.1%減の 15 億 2,699 万 3 千円であります。補助費等は、病院事業会計繰出金などにより、前年度対比 7.9%増の 19 億 4,394 万 3 千円であります。

普通建設事業は、研修牧場施設整備事業の減のほか、地域会館整備事業の完了などから、前年度比 8.1%減の 11 億 2,753 万 5 千円であります。

投資及び出資金は、前年度対比 7.7%増の 2 億 5,497 万 4 千円であります。

表内では、病院事業に対する繰出金は、性質上、補助費等と投資及び出資金に含まれておりまして、総合病院へは前年度対比 1 億 2,454 万 1 千円の増で 11 億 9,844 万 5 千円、国保病院へは前年度対比 1,355 万円の増で 1 億 9,482 万 2 千円、合計で 13 億 9,326 万 7 千円であります。

4 ページの歳出 目的別内訳につきましては、ただ今ご説明いたしました歳出性質別経費を款ごとのに整理したものと、前年度との比較を表した資料であります。

次に 5 ページから 10 ページにつきましては、令和 4 年度の主要事業としまして、表にまとめておりますので、ご参照願います。

11 ページの平成 26 年度から令和 4 年度当初予算の財政推移については、参考までに添付をしております。

下段の基金残高の推移であります。令和 3 年度末の基金残高は令和 2 年度末残高から 10 億円増額の 111 億円、令和 4 年度末では 100 億円を見込んだところですが、令和 3 年度の決算状況や令和 4 年度の予算執行状況により変動することが見込まれるところであります。

最後になりますが、連結する全会計における需要は年々変化しており、中でも総合病院の経営状況により一般会計が大きく左右される状況から、それらを踏まえ、改めて財政試算を行うこととしております。

つきましては、3 月定例会に向けて中期的財政試算をお示ししたいと考えております。以上、簡単ではございますが、説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） それでは（1）令和 4 年度予算概要について、皆さんから質疑を受けていきたいと思いますが。

○2 番（佐藤智子君） 議長、佐藤。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○2 番（佐藤智子君） 1 枚目の予算編成の概要ですけれども、国保会計が 4,352 万 1 千円の減なんですけれども、この分は、一般会計から借入れした分という、そういうような考えはございますか。

○財務課長補佐（横田盛二君） 議長、財務課長補佐。

○議長（千葉 隆君） 財務課長補佐。

○財務課長補佐（横田盛二君） 国保会計の繰出金についてですけれども、それについて影響するものではありません。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

(「なし」という声あり)

○議長（千葉 隆君） なしということです、あとは予算委員会がございますので、そちらのほうでお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） それでは（２）特定政策ウイスキー事業について、政策推進課からご報告をお願いいたします。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） それでは、特定政策事業についてご説明申し上げます。

特定政策のうち、ウイスキー事業につきましては、企業誘致や地域振興対策として、町の重点プロジェクトに位置付け、これまで進めてきたところでございますが、ここに来まして、ちょっと事情が変わってきてしまいましたので、本日お時間をいただきまして、その内容を報告させていただきます。

なお、お配りする資料はなく、口頭での報告となりますことをご了承願います。まず、このウイスキー事業のこれまでの経過を簡単にご説明いたします。

はじまりは、オートリゾート八雲を運営し、当町と長年の関係性がありました、小学館集英社プロダクションが、令和２年２月に来庁された際に、ウイスキー事業の話をいただいたことがきっかけでございます。

ご承知のとおり、小学館は大手出版社であります、この出版業務にも様々な業務以外にも様々な事業を行っており、その一つとして 2017 年からウイスキー事業に参入しているところでございます。

現在、小学館が行っているウイスキー事業の形態は、海外から輸入したウイスキーボトルに小学館が出版している漫画等をラベリングして販売するといった方法をとっているところでございますが、昨今、日本産ウイスキーの人气が非常に高く、高値で取引されている実態などから、自社ウイスキーの蒸留、製造を行いたいとの意向もあり、当該蒸留所の候補地、または資金面のサポートなどについて八雲町に打診があったものであります。

これを受けまして、町としても、小学館との協議や独自で日本国内のウイスキー市場や海外への輸出の動向などを調べたところでございます。

その結果、日本産ウイスキーの需要が国内外で急速に拡大していること。また、近年のウイスキー人気の高上りによる減収不足により供給が間に合っていないという状況がわかりまして、当町としても今後のウイスキー市場は非常に期待できるものと考えたところでございます。

そして小学館からは、令和２年 12 月会社の取締役会において、ウイスキー蒸留所の設立について承認を得たとの報告を受け、町といたしましても、新たな産業や新幹線駅開業を見据えた観光資源の創出、また、町のブランド力向上を図っていくためにも、ネームバリューの高い小学館との連携、共同による事業展開は有り難い話でございましたので、まずはその可能性を探る調査検討業務に着手することを決定し、令和３年度予算に特定政策調査検討業務として、項外費用約 660 万円を計上させていただいたところでございます。

この予算措置いただきました、調査検討業務につきましては、ウイスキー蒸留所の設置場所を小学館側に決定してもらわなければ執行できない内容のものになっており、コロナ禍の影響により小

学館による蒸留所候補地の現地視察がなかなか叶わず、当初予定よりも大幅に遅れをとってしまいました。

小学館の役員がようやく当町を訪れることができましたのは、昨年10月22日のことであり、熊石平町の町有地を視察いただいたところ、好感触を得て、その時点ではほぼ熊石地域に決定したいという喜ばしい回答をいただいたところでございました。

また、その後の11月19日、町長が東京の小学館を訪問した際には、他の役員からも改めて事業の決定の内諾をいただき、あとは社内調整後の正式決定の回答を待つてほしいとのことでございました。

しかしながら去る2月10日、小学館から報告を受けた内容を申し上げますと、ウイスキー造りができるノウハウを持った人材の確保が困難であるため、現段階での事業継続は厳しいという内容でした。

この理由といたしましては、ここ数年、急速な勢いで、日本各地にウイスキー蒸留所が設立されたことに伴って、蒸留を担う専門知識を持った人材の奪い合いが激しく行われていることが背景にあるようで、小学館もこのような事態が起きるとは予測できなかったということであり、我々も期待していただけに残念でなりません。

このようなことから、町といたしましては、小学館との本事業に係る構想の検討をこれ以上進められない状況となりましたので、本年度予算化させていただきました、調査検討業務の約660万円につきましても執行せず不用額として処理させていただくこととなりますので、ご了承をお願いいたします。

なお、小学館とは今後におきましても関係性を保ち、引き続き多方面で連携していくことを約束いたしました。この先、ウイスキー事業の構想を再開する際には、議員皆様への報告とともに、かかる費用を予算に反映させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単でございますが、報告とさせていただきます。

○議長（千葉 隆君） ただ今の報告につきまして、皆さんのほうから何かございませんか。

○8番（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤君。

○8番（三澤公雄君） 人材確保が難しいのではという企業の判断を的確に判断されたんだなと思います。夢というか実現したい夢にこだわってずるずる行く自治体が過去多かった中で、今の時期にスパッと、でも諦めていないという判断は、僕は正しいのかなと思って聞いていました。

○議長（千葉 隆君） よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（千葉 隆君） それでは（3）八雲町教育委員会教育長の任命についてを議題としたいと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） それでは、教育長の任命についてご説明申し上げます。

現職の土井教育長が、令和4年3月31日をもって任期満了となることから、再度、同氏を教育長に任命したいと考えております。同氏は八雲町東雲町84番地3に在住で、昭和35年11月2日生まれの61歳であります。

同氏は前任の田中教育長の残任期間である令和2年4月1日から現在まで教育長を務められ、教育行政に関する識見が高く、公正な立場で大局的な判断を成し得る方であり、教育長として適任でありますので、第1回定例会における議案の上程に際しては、議員各位のご賛同を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（千葉 隆君） それでは、任命について同意人事ですので、皆さんご存じだと思いますので、報告に定めて（４）に移ってもよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（千葉 隆君） それでは、上八雲地区ふ化施設 有限会社北海農園の概要についてを議題といたします。報告をお願いいたします。

○水産課長（田村春夫君） 議長、水産課長。

○議長（千葉 隆君） 水産課長。

○水産課長（田村春夫君） それでは、上八雲地区ふ化施設の概要について説明申し上げます。

資料1ページをご覧くださいと思います。場所は八雲町上八雲49番5ほか6筆となります。購入予定の面積は7筆合計で27,274㎡であります。施設内には飼育棟があり、その中に発眼卵のふ化、それと養魚池が5基設置されています。池の大きさにつきましては右に記載のとおりであります。飼育棟の外側には飼育池があり、全部で6基設置されています。一番大きいもので12m×7.2m、一番小さいものが3mの円形水槽となっています。飼育棟の奥側にある円形の水槽は、温泉で熱交換ができるような水槽となっております。建物は管理棟、飼育棟、車庫の3棟で合計面積が214.51㎡です。

湧水量は毎分4tで、年間を通じて温度が6℃から7℃と安定しております。温泉量は毎分60リットルで温度は23℃であります。湧水の熱交換に温泉を利用しております。

ここの施設の生産能力につきましては、相手方からの聞き取りであります。卵のふ化数、稚魚生産数、幼魚生産数ともに、10万と聞いております。また生産実績につきましては、ふ化、稚魚、幼魚生産とも8万と聞いております。下の写真は位置図で、赤で囲んだ部分が今回購入を予定している予定地となっております。

2ページ目をご覧ください。写真は昨年4月23日に撮影したものであります。一番上の写真は手前が管理棟で、奥に見えるのが飼育棟です。車庫は管理棟の奥側となっております。下の写真は飼育棟内の養魚池の写真です。写真に写っている魚はこのときトラウトサーモンを養殖しておりました。

3ページ目をご覧ください。1番上の写真は8mの円形水槽で、右側はそれをアップしたものです。真ん中の円形水槽は先ほど説明いたしました、湧水を温泉熱で熱交換し、このときは10℃でトラウトサーモン、1尾約500g程度のもの、1,000尾、ここの水槽で飼育しておりました。

4ページ目をご覧くださいと思います。この施設で一番大きい水槽となっております。このときはニジマスの親魚、成魚ですか。を飼育しておりました。なお、このニジマスについては在来のものであります。

下の写真はトラウトサーモン用の餌で、日清丸紅の配合餌料を使用し、右の写真は病気等が発生した場合は、薬品等は現在使えませんので、病気対策として海水塩を使用して対応しております。

5ページ目をお願いしたいと思います。5ページ目は今回購入しようとする土地、施設の内訳となっております。土地は上八雲49番5の原野ほか6筆、計7筆で、面積は27,274㎡です。原野の

単価は 200 円で設定しております。これは当初、熊石泊川町で予定していたときの原野価格 200 円で設定したもので、その価格を参考に 200 円としております。991 番の単価は 300 円で設定していますが、この土地には温泉があることから、原野価格の 1.5 倍の 300 円としております。50 番 1 は飼育棟など建物があるほか飼育池があり、種目は宅地雑種地等であります。青年舎が土地を購入したときの価格を参考に単価を 302 円に設定しています。また、いずれの土地も湧水確保に重要な役割を担っていると伺っています。

建物は管理棟が 90.55 m²で、価格は 462 万 9,980 円、車庫は 66.11 m²で価格は 65 万 858 円としております。飼育棟は建物が 57.85 m²で、建物内には養魚池 5 基と餌などの資材置き場があり、建物の周りには飼育池が 6 基設置されています。

今回の価格算定に当たり、ふ化施設を新たに整備する場合に 20m の井戸を掘削するのに 1,000 万円程度、その汲み上げに係るポンプ代が 2～300 万円程度、トータルで一本の井戸に必要な費用が 1,300 万円程度かかると想定されています。

仮に水が出なかった場合や、水質が悪く養殖に適さない場合は、更に井戸を掘削する必要があります。またトラブル等のリスクを考えると井戸は 2 本以上あったほうが良いと考えています。ふ化、幼魚、飼育施設もその他必要になります。使用用途は違いますが、熊石地区にある北大との試験研究施設は、約 7,500 万円程度かかっております。新たな施設整備には水の確保が重要で、その心配がいない当施設は、今後のふ化事業に有望な施設と考えております。

この施設は今までの投資、また一昨年、1,000 万円程度かけて飼育棟の屋根などを大改修も行っております。本人との話し合いの中で全体の売買価格が 5,000 万円と示されておりまして、飼育施設につきましては 3,793 万 1,138 円として、購入予定価格を合計 5,000 万円としております。

以上、上八雲地区ふ化施設の概要について説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） それでは、ただ今、ふ化施設の概要について詳細にご報告がありましたけれども、このことについて皆さんのほうからなにかありませんか。

○11 番（斎藤 實君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 斎藤さん。

○11 番（斎藤 實君） 今、説明がありましたので、事業の概要はよくわかったんですけども、ただ、町として、できれば地元でやっている事業所をつぶさないで、やってもらって町としてはやはり固定資産はじめ税収は上がるわけですから、やっている事業所、町自体が買い取ってやるという、この考え方、僕ちょっと理解できないんですね。やはり事業所はたくさんあったほうがいいわけですから、どういうふうにして成功させてもらうのかということを、逆に町が手助けしながら、そして町は町で当初の目的どおりやりたいのであれば、多少お金かかっても私はいいのではないのかなと考えるんですけども、その点の考え方についていかがですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 斎藤議員さんおっしゃっているとおりですね、個人でやっている、会社でやっているの固定資産税が入ると本当に同感いたします。しかしこの方が高齢であるということと、さらに今、息子さんもいますけれども、継がないということで、お売りしたいということもあって、買うことにしたということをご理解いただきたいと思います。

○11 番（斎藤 實君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 斎藤さん。

○11 番（斎藤 實君） そういう事情があるならば、これもまたひとつの考え方としてあるだろうけれども、これまで、たとえば木蓮なんかは事業経費をどうやるのかということも、いろいろ検討されて木蓮の立ち上げもしているわけですよね。ですからそういう点から鑑みましても、その事業所をどう事業継承させていくのかということも一つの手段ではないのかなと私は思うんですね。そしてやはり、活かしてしていくものは、どう活かしていくかということも、町としては考えるべきことではないかなと思うんですけれども。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 確かに斎藤議員さんがおっしゃっているとおりだと思います。しかしながらですね、今、熊石地域にあるこれから中間育成については、特にですね、ふ化するというのは大変難しいということをお聞きしております。さらに先般もですね、オカムラさんとの話し合いの中でも、いろんな調整をしながら全滅したということも、今回担当者も気が落ちていましたけれども、このふ化は大変難しいということと、さらにふ化する時にその場所の水が大変良いということもありですね、その方とも幾度か話をしながらですね、先ほど言ったとおりですね、息子さんもやらない、事業継承が難しいということと、我々としてもこのふ化事業に対してのリスクを回避するためにも2か所以上あったほうが良いというのはオカムラさんの話でありましたので、この件もオカムラさんとよく相談しながら、オカムラさんは是非買ったほうが良いということをですね、見解をいただきながら、私たちはなかなか中間育成やふ化事業は大変難しい技術と聞いております。特にこのオカムラさんのほうのふ化の技術を我々に公開することはないと思っていますし、多分この方もですね、多分、独自のですね、ふ化事業のやり方でやっているということを認識しています。

この施設も我々がもし買い求めた場合に、これもオカムラさんの話ですけども、一度、閉鎖して消毒すると。菌とかいろいろあるそうで、それを一度消毒して、さらにふ化の試験をやりながら使っていくということでありますので、やはりこのふ化事業は大変難しいと、専門的な技術がいる事業と認識しております。

これがあることによって、熊石の中間育成、さらに大きくなると冷水川の中間育成の事業も考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○11 番（斎藤 實君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 斎藤さん。

○11 番（斎藤 實君） そうすると、稚魚の関係で、二つ別々にあってやっぱり全滅する、そういう危険性をはらむのであれば、ある程度、施設は別々、できればある程度離れたところと。これはもうよくわかりました。理解もするんですよね。ただ、この施設を買い取って、それじゃあオカムラさんですか、今契約するところ。そこの方が運営するということになるんですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 斎藤議員がおっしゃるとおりです。あくまでもですね、このふ化事業というのはなかなか難しい、中間育成も難しいんですけれども、これは技術的に私はオカムラさんの、オカムラ食品さんといいますけれども、技術を盗みたいと思いますけれども、その技術はなかなか

教えないというか、そういうことでありますので、どんなふうに行っているのか理解できませんけれども、我々ができる事業ではないということは、ご理解いただきたい思います。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○7番（倉地清子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 倉地さん。

○7番（倉地清子君） これだけの広い面積の結構池が多い中でも、飼育をするというよりは、稚魚を育てるといふか、そういうことであまり使わない感で言われていましたけれども、今、知らないで聞かせてほしいんですけれども、今現在の中で人ってどれくらい、結構あるから人数が必要なのかなと思っていて、その方はこれからどういうふうになっていくのかを教えてもらえたらなと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先ほど言ったとおり、詳しくは私もわかりませんが、聞くところによるとここの場所でふ化させるということです。卵からふ化させるのは、多分今これ10万でなくてここで50万とかもっと多い量がふ化すると思います。しかしながら我々もですね、ここで何尾ふ化できるのか我々想定できませんけれども、今、熊石でやるのは、熊石の支場もふ化させて中間育成する場所なんです。ここの場所はですね、あくまでも卵からふ化する場所であります。

ふ化させた時にですね、ある程度ふ化させてこれくらいわかりませんが、それを熊石側に移動したり、熊石でもしも、ふ化させたときに病気が発生したときに、すかさずここでまたふ化させれるんです。今、我々、トラウトサーモンの卵は北米からの輸入なんです。ふ化する時期は、大変ここの良いのは、オカムラさんの話ですけども、温泉があるということで、温度の調整ができるというのはなかなかないそうです。そうすると、もしもふ化して全滅した時には、すかさずここでふ化できると、大変良いふ化場になるということをお聞きしておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○7番（倉地清子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 倉地さん。

○7番（倉地清子君） 今の質問、多分私の言っていることが伝わっていないのかなと思ったんですけども、今現在、働いている人がどうなるのかお聞きしたかったんですがよろしいですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） ここで働いている人はですね、ほとんど社長さんと奥さんがやっていたような気がします。これからはですね、多分ふ化する時は人がいたと思いますけれども、この方もここだけ会社やっていませんので、たくさんの従業員を抱えている会社もやっていますので、そのときは来ているかもしれませんが、ほとんどここの代表者の奥さんも私もしょっちゅう会いすけれども、餌をやりに行っていた気がしますので、そこに従業員さんがいてもですね、その会社はたくさん事業やって困らないと思っています。

それとこれからふ化するのはですね、先ほど言ったとおり、我々がやっていただくオカムラさんが来てやるということで、私たちがやるということにはならないと思いますので、お願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○8番（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○8番（三澤公雄君） 小さいことなんでしょう、サーモンの養殖事業は八雲側はやらなくなって熊石になりましたよね。それで産業課の担当なんですけれども、これは大関地区にあるんですけれども、これから新しい会社が運営するにあたっては監督というか管理の課は水産課になるんですか。僕は産業課一体で見たほうがいいと思うんですけれども。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 大変申し訳ありません。今回ですね、たまたま産業課長がちょっといろいろ事情があって出れなかったということで、今回、前回説明した水産課長にお願いしたということでご理解いただきたいと思います。もちろんこのサーモン事業は、産業課並びに水産課も連携いたしますし、さらに皆さんがご存じのとおり、4月から北海道から課長さんが派遣されますので、全体はそんな感じで進めて行くということでご理解いただきたいと思います。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5番（関口正博君） 委員会等でもいろいろ説明を受けてまいりました。非常に町長の考えているサーモン事業というのは、壮大なもので、相当な事業費がかかるんだろうと。その一環での施設整備ということで、どうしてもなにか全体が見えてこない部分がありまして、どれくらいの規模のお金がかかるのか、それでタイムスケジュール的に、道の方も来られるということですが、今年はどれくらいのお金がかかるのか。それで次の年度はここまでやるだとか、この土地自体を購入するというのが先に来るとというのがまだ理解できない部分があるんですよ。どうしても。それで必要性というのはよくよくわかります。将来的にいろいろ考えて土地を用意するということもよくわかります。

ただ、このサーモン養殖事業を本格的にやるんだと。どうしても成功させると。だとするならば、もうちょっと詳細な年度別の計画も当然あつてしかるべきだと思いますし、そういうものの提示というのは今後どのような感じでされていくのか教えていただけますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 大変、関口議員が不安になるのはごもっともだと理解いたします。今のところですね、協力いただいている業者の方と話し合いをして、まずはふ化事業、これを中間育成の幼魚を作るというのが一番の事業だと思っています。とりあえず。それで今、我々一緒に連携しているのが、木古内から今のところ神恵内までの沿岸の町、漁協がですね、幼魚が欲しいということは聞いていますので、幼魚をですね、いかにですね、安価で作るかということに、ここの場所が必要だということと、さらにですね、オカムラさんは熊石で、幼魚の育成は熊石側でやりますけれども、幼魚を作ったものでもし余るようであれば、オカムラさんが引き取るとなっていますので、幼魚を活かして中間育成したものについては、余すことはないということでご理解いただきたいと思っています。

やはり、我々、熊石側に海がないので、前にも説明したとおり、奥尻側と想定していますけれども、これについてまだまだ海流だとかいろんなものの調査はしていませんので、これはリスクを少なくするためにも海の調査等々はこれから進むものと思っています。

ただし、ふ化して中間育成する幼魚を作るという事業を、これからオカムラさんと話しながら予定してくるものということで考えていますが、これからですね、多分、今月か来月くらいからオカムラさんが全部の調査に入りながら、夏前には事業の中間育成の事業の大体想定が皆さんにお示しできるということでご理解をいただきたいと思います。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5番（関口正博君） だとするなら、夏くらいに大体大まかな計画というものが見えてくるということで、今回この土地の部分、上八雲の土地の部分が金額も大きいものですからあれなんですけれども、それからの土地取得ということでも、そもそもの全体の計画が見えて体制も整ってそれからの土地取得でもいいのかなという気はしますが、その辺はどうなのでしょう。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） こればかりはですね、売り手ということもありますので、これはオカムラさんと相談しながらですね、売るんであれば買ったほうがいいだろうということと、先ほど言ったとおり、買ったからといってすぐに使えるのではなくて、菌を除去するのに1年程度消毒するという事も聞いています。

その先ほど言ったとおり、この施設はすぐにふ化できるということで、もしも熊石側でふ化に失敗したり病気が発生したときに、これが大変利用できるとお聞きしています。

たしかに関口議員さんがおっしゃっているとおり、私もはじめはちょっと高いのかなって個人的には思いました。ところがオカムラさんの話を聞けば聞くほど高くはないんじゃないのかなと。温泉が出ているということは凄いことなんだと。

それともう一つオカムラさんが言っていたのは、トラウトサーモンにはふ化させたという実績というのはオカムラさんたちもやっぱり井戸を掘っても、そこにふ化の実績がなければなかなかやっていけない。かなりオカムラさんの話だと、その水が大変いい水なんだろうと言っていましたので、ふ化できる水というのはなかなかそんなに出てこないという話もオカムラさんから聞いていますので、今は逆に安い買い物したんじゃないのかなってくらい、少し最初の気持ちと変わってきたということをご理解いただきたいと思います。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5番（関口正博君） いろんな上八雲の土地、もちろん今までの実績もありますし、今後ですね、サーモンに関しては陸上養殖、完全陸上養殖化を見据えたときには、もちろん有効な土地である可能性もあるのかなというふうに思っています。

ただ、先ほど小学館のほうでウイスキー事業、人材がいらないということで、とりあえず断念するという話がありました。この点は非常に心配していて、先ほど熊石産業課を中心にということでありましたが、オカムラさんに頼り切るといふ部分もものすごく不安ですし、かといって熊石で人材をとというのも、この水産業も非常に難しいのは町長もよくわかっているでしょうし、そこまでオカ

ムラさん自体を議会として本当に事業として、そこまで信用していいのかは僕もちょっと甚だ不安の部分があります。

総事業費もいくらになるのかという部分も当然ありますが、その相当かかりますよね、おそらく。土地とかこういうものは安く買い取られるようですので、その辺はあれだけでも、いずれにしても事業を継続していく。他町を巻き込んでいく。いろんなことを考えたら責任もお金も凄く重大なことになろうかと思いますが、そのためにはいろんな不安点が一つ一つ当然取り除いていくことは非常に大事なことだと思いますし、オカムラさん自体の計画自体を見てから、すべての判断を下していくという順序も非常に大事なのかなと思うんですね。

最終的に奥尻とかフェリー事業の付随した事業も出てきます。人材としても、前にも委員会の席でも言ったんですが、噴火湾側がどうしても降りたという部分で、人材的にやっぱり噴火湾側の人材はちょっと青年部にしても魅力かなと、どうしても働く人は必要なので、オカムラさんはそこまでの面倒を見たうえで八雲町での事業展開というものを目指しているのか、事務に関しては当然プロの方々がやっていくでしょうから、何の不安もない部分もあると思います。道から人が来るということですね。

ただ実際に働く人間というのは、非常に自分が思っている以上に大変だと実感いたしますし、その辺のことも含めて、事業というものを今一度もうちょっと計画というものをしてから、いろんなことがスタートしたほうがいいのかなと。もちろんそのとおりに行くと思っていないです。この水産関係は非常に難しい。農業より難しいものだと思いますし。そういう段取りを僕としては望みたいと思うんですけども、どうなんでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 確かにですね、私はこのトラウトサーモン、サーモン養殖事業というのは挑戦だと思っています。それで、先ほど関口議員さんがおっしゃった、私は小学館が今回こういうふうになったのは、あまり会社が大きくてなかなか結論が出てこないということが、これは私の判断でありますけれども、ウイスキーも小学館に一生懸命やった方は即座に熊石地域でいいということも言って、なかなか役員の人たちの根回しやっているうちに、その人がウイスキー事業を逃げたというか他所に取られたというのが原因だと聞いています。だからこのサーモン事業も関口議員さんですね、落部の青年部って言いますが、あくまでも中間育成は漁業者がやっていないので、オカムラさんの、是非議員の皆さんも、今別並びに深浦の養殖事業を見て来ていただければ、私の言っていることが実感できると思います。

あくまでも中間育成というのは、今はA I使いながら監視しながら水温、卵のふ化時期等々、漁師がやるという部門ではないと意識しております。さらに海面養殖もですね、港の中で漁師が餌をやるということではなくて、今別は40mサークルで自動にA Iを使いながらやっていると聞いていますので、なかなか人材というのは、確かに働く人を熊石地域に呼び込むのは大変難しいことだと思っていますけれども、私は日本海、特に熊石地域の活性化にはトラウトサーモンの養殖事業に挑戦してやっていきたいという思いでありますので、逐次、常任委員会や議員の皆さんに報告しながら、私は是非進めたいという考えをしていますので、ご理解をいただきながら、またいろんなことがあれば質問をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○5番（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○5 番（関口正博君） 町長、最後に一つだけ聞かせてください。もちろん最終的な目標は当然あるでしょう。最低限この事業を事業というもので呼べるまでにどれくらいのお金がかかると思いますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） はっきりですね、読めません。というのはですね、先ほど言ったとおりですね、この中間育成はですね、どれほど水産省の補助がもらえるのか、さらに北海道の協力。先ほど予算のときにも基金が預金が 111 億を超えたということですが、それを使つてつぎ込むというのは私も関口議員さんですね、商売人でありますので、そんなに採算が取れないものはやらないということだと思います。ただ、熊石側の中間育成というのはですね、採算が取れると認識しています。

たとえば今の上八雲のふ化施設さらに熊石側のさけますふ化場、これを整備するには補助金がなくとも 10 億もかからないでできるだろうと思っていますので、これから補助とかいろいろありますので、やっていきたいということで考えています。そんなに大きなお金はかからないと思っています。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○4 番（大久保建一君） はい。

○議長（千葉 隆君） 大久保さん。

○4 番（大久保建一君） これ買うのはいいんですよ。町で町有施設として買うというのは。将来的にどういうふうになるんですか。この育成事業はオカムラさんの事業になるのか、それともオカムラ食品として八雲町で設立した会社がやるのか、町の事業なのか、もしそうだとしたら今度この町で買った施設を贈与するのか、それとも委託して運用してもらうのか、どういうふうに考えているんですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） この公設民営ということも考えていますし、先ほど斎藤議員さんからも質問がありました、公設民営だと固定資産税が入りませんので、その会社に贈与しているか、青年舎みたく持たせて税金を取るということもありますので、その辺については私もまだまだ詳しく決めていますけれども、公設民営にしてもらうように、さらに贈与を補助するということを両面で考えていますので、それについてはまた議会の常任委員会の皆さんと議論を交わしながら町にとってどんなほうがいいのかを決めていきたい。

さらにこのふ化施設、中間育成の運営をするのも町とオカムラ食品さんと、新たに作る会社が運営するということで理解していただければと思います。以上です。

○4 番（大久保建一君） はい。

○議長（千葉 隆君） 大久保さん。

○4 番（大久保建一君） 買い手と売り手のタイミングは凄く重要で、町長が急ぐというのは何となく理解はできるんですけれども、普通の事業でいけばその事業主体だとかなんとかの計画が決まったうえで購入していくのが普通の順番だと思うんですよ。だからさっき関口議員が言ったよう

にリスクを、どちらかというと町だけが被っているような感じになると思うので、そこら辺、私たちも見極めができないというか、今買ってしまったら町有財産になるので稼働しない限り、望まないと思うんですけども、ちょっとタイミングが早いのかなと。飛びつき過ぎかなという気はするんですけども。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 結局ですね、熊石の、さけますふ化場が北海道から4月に移管されるということは、移管されますので、これはあくまでも町としてもあそこで中間育成をするということで北海道から安く買い取るということになっています。やる事業については先ほど言ったとおり、もう一か所ふ化する場所が必要だったということで、それはたまたまそこにあったということでご理解いただければ。やる以上もう一か所なければできないということでご理解いただきたいと思います。

ただ、この先ほど言ったように、ふ化する事業に対しては、これから道南支場を買いとった場所で従業員がきちっと飯が食えて、さらにですね、ふ化をした魚を中間育成をして経営するということでご理解いただきたいと思います。また海面養殖事業とはまた別なことということでご理解いただければ、透明感ができると思いますので、よろしくお願いいたします。

○11 番（斎藤 實君） もう一度いいですか。

○議長（千葉 隆君） どうぞ。

○11 番（斎藤 實君） だいたい様子はわかったんですけども、ただ、全体としてわからないのが、オカムラ食品さんと町がどういうかたちで会社立ち上げるのか、今、町長から公設民営という話がありました。ただ、公設民営は僕はあまり好まないんですね。お金出すならお金をきちっと出して、民間のノウハウでやってもらうのが一番ベターだと思うんですけども、ただ、今八雲の部分と、それから熊石の鮎川地区の部分との兼ね合いですね。どっちもオカムラ食品の新しい会社がやるんですか。それとも向こうは向こうで町の施設としてやるのか、その辺の区分というのはどのように考えていますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先ほども話しましたがけれども、一緒です。熊石の中間育成するところも、この今、北海農園さんの買い取る場所も一緒です。これはふ化、中間育成の事業として一緒に運営するということで。

ただ、斎藤議員さんですね、私はですね、前にも言いましたけれども、日本海、特に熊石地域の漁業がだんだん少なくなっているのが一番地域の活性化にならないということを考えながら、何か本当に良いものがないかということで、たまたまオカムラさんを紹介されたということで、オカムラさんも是非来たいというのではなくて、是非来てほしいのは私でありますので、その辺はオカムラさんと町が一緒の事業でやっていくということでご理解いただければと思います。

これからですね、オカムラさんとも新しい会社をどんなふうに作ればいいのかは議論しながら進めたいと思っています。前にも言ったとおり、ふ化して中間育成する。熊石のサーモン養殖部会、これはあくまでも海面養殖をやりながらやっていくということを理解していただきたいと思いますし、さらに乙部町、上ノ国も江差もせたなも奥尻もそうでありますけれども、奥尻も自分たちのサ

一モンの海面養殖事業は自分たちがやっていくということです。ということで理解していただければなと。

ただ、我々奥尻で 2,000 t くらいやらないと、海面養殖がペイしないというようなことはありますので、そこはこれから調査して、できればやりたいということでありますけれども、先ほど言ったとおり、あまりお金がかかりすぎると、下手したらそこで 2,000 t もですね、この一緒の事業はやらないかもしれませんけれども、あくまでも今、サーモン、本当に私は可能性があるということで挑戦したいということでご理解いただければなと思います。

○議長（千葉 隆君） 町長あれですね。要は八雲町とオカムラ食品さんと出資して新たな会社を作ってそこで運営するというのが、だいたいオカムラ食品が 8 月 9 月頃には計画を作ると。それ以降に会社を設立するというようなイメージで今、進んでいるということでいいんですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） おおむねいいと思いますけれども、会社を早く作るかもしれません。これ私も、先ほどもなかなかこのコロナ、もっともっとオカムラさんとも膝を交えて話をしたいんですけども、どうしてもリモートでの話でありますので、なかなかこうやって議員さんと話をするみたいになりませんので、もうちょっと 3 月議会が終わったら多分オカムラさんのところにも行けるし、逆にオカムラさんにも来ていただけるということでもうすこしですね、詳しく皆さんに説明できるということでご理解をいただきたいと思います。

○議長（千葉 隆君） なかなか計画自体が 100%できていないので、これ以上できないと思いますので、いずれにしても 8 月頃には計画はできると。できればその前に会社もできると思いますので、できる前にもう一回議会のほうに報告するというので。ほかにありませんか。いいですか。

（「なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） それではこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございます。

◎ 報告事項

○議長（千葉 隆君） それでは次に 4 報告事項（1）令和 4 年度議会費の予算について最終ページになりますけれども、これについては議会事務局のほうからご説明お願いいたします。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） 議長、庶務係長。

○議長（千葉 隆君） 係長。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） それでは令和 4 年度の議会費の予算についてご説明いたします。本日配付しております資料の最終ページをご覧くださいと思います。

令和 4 年度の議会費の予算につきましては、資料最下段の合計欄に記載のとおり 7,934 万 4 千円となっております。前年度、令和 3 年度当初予算額と比較して 536 万 8 千円の増額計上となっております。

増額の主な理由についてご説明いたしますと、表上段の 1 節報酬 3 節職員手当等 4 節共済費につきましては、昨年の 11 月分から議員報酬を見直ししておりますけれども、これに伴う増額となっております。

詳しくお話ししますと、報酬につきましては、昨年は4月から10月分は前報酬額、11月から3月分は新たな報酬額で積算しておりましたけれども、令和4年度は1年間の報酬額がまるまる新たな報酬額となることから、それによる増額となっております。

職員手当等いわゆる期末手当につきましては、昨年は6月の期末手当は見直す前の報酬額を基準に支給されておまして、12月の期末手当については新たな報酬額を基準に支給しておりました。令和4年度につきましては、6月12月の期末手当ともに新たな報酬額を基準に支給するというところで増額となっております。

共済費につきましては、共済費の共済会の負担金の算出のもととなる標準報酬月額につきましては、毎年4月1日現在の議員報酬の額によって算定されますが、これは令和4年度は新たな報酬を基準とした標準報酬月額となることから負担金が増額しております。

なお、職員手当等の期末手当の支給月数の見込みですけれども、昨年の人事院勧告において4.45月から4.30月への勧告が出されておりますが、こちらにつきましては、昨年の国会情勢において町のほうでも4.30よりも見直しの条例改正等を行われておりませんが、令和4年度は4.30月で見込んでですね、予算も積算していくことから、議員の期末手当におきましても、町長等に合わせてこれまで積算されていることから4.30月の見込みによって令和4年度の予算を積算しております。

なお、8節旅費につきましては、これまで先進地視察の旅費として、令和元年度から令和3年度の時限的な予算として措置されていましたが、みなさん一人当たり約10万円の旅費について減額しておりますので、それに伴う減額となっております。

なお、18節負担金交付金、こちらについては渡島町村議会議長会の負担金が減額となって、34万4千円の減額となっております。こちらはコロナの影響によって渡島町村議会議長会の活動がほぼなかったことから、令和4年度については負担金を減額したということでございます。

なお、令和5年度以降につきましては令和3年度の予算額73万5千円相当の額にまた見直されるということで通知されているところでございます。

以上のことから増額の計上となっております。その他の節につきましては、昨年と同額ないしほぼ同額の計上となっております。

○議長（千葉 隆君） 今別に行って見てこいって言ってるけれども。

○議会事務局長（三澤 聡君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 事務局長。

○議会事務局長（三澤 聡君） 以上が議会費の説明でございますけれども、予算に関連しまして、もう一点ご報告させていただきます。議会バスの更新の関係でございますけれども、議会バスはですね、平成12年に取得して21年が経過しておまして、走行距離も30万kmを超えている状況です。これまでも経年劣化による故障が頻発しており、今後も高額な修理が予想される運行にも支障をきたす恐れがあるということから、町としましては、新年度予算において車両の更新を行うことで予算付けを予定しております。

更新にあたりましては、財政負担を考慮しまして、福祉バスとして更新することで予定しております。その理由は議会バスとして購入するという場合は全額町の持ち出し、一般財源での購入となりますけれども、福祉バスとして購入する場合は過疎債を活用できるということから、一般財源の負担が軽減できるということで福祉バスとしての購入と考えてございます。

なお、議会での利用に関しましては、これまでと同様ということで協議済みでございますので、議会の予約については何ら影響はないような事態でございます。

この件につきましては、新年度予算の民生費の中で福祉バス整備事業として計上される予定でございますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。以上でございます。何かご質問があればよろしく願いいたします。

○3番（横田喜世志君） 今までの議会バスって定員が少なかったんですけども、福祉バスにするとフルのサイズで買うという話になっているんですか。

○議会事務局長（三澤 聡君） 今回の購入に当たっては、バスの規模は今と同様に23人程度のバスを購入することで予定しております。

○3番（横田喜世志君） 普通、今までのバス、議会バスではなくて普通の通学バスにしろ、なんにしろ、小さいやつよりはフルの大きいやつという考え方が示されてたと思うんですけども、議会の入れ替えて同程度ということなんですか。

○議会事務局長（三澤 聡君） 今回はですね、議会バスの更新ということですので、バスの規模はですね、同等程度ということの考えでですね、町としては考えているということでございます。バスの規模を大きくするというのではなくて、同等の規模での更新ということで考えているということです。

○11番（斎藤 實君） 議会バスじゃないほうがいい。町民に怒られる。

○議会事務局長（三澤 聡君） 議会バスも今までも議会としての利用はごく限られていますので、その空いている時間は、ほかの老人クラブだとかの団体に貸しておりますので。

○8番（三澤公雄君） その説明がわかったうえで。議会バスって言いながら多目的に使っていて、今回、議会バスでなくて多目的に使うという前提で買うなら、多目的の側に寄せて運転するんだったら車幅が狭くてハンドルが取られるって言われているんだし、今までの大きいバスと同じサイズのものにして、こういう方法を考えたほうがいいし、場合によってはですよ、まだちょっと時代が早いかもしれませんが、電動化も含めて八雲の持続可能ということをPRするようなバスの投資も考えてこうなんというの、ちまちました今までの型にはまった塩梅の悪いバス買うよりもいいと思うんだけど、議会の予算じゃなくて民生の予算にすればいいしょ。だけどサイズ感も含めて、多目的なバスに議会バスとしても使えますって言ったほうが斎藤議員もヤジ飛ばしてたけども、受けはいいと思うんだよね。町民が使うための目的にバス購入に議会も使わせてもらうというのと、議会バスとして購入したものをあなたたちにも使わせてやるって聞こえるから議会バスって。どうなんだろう。サイズも含めて。

○議会事務局長（三澤 聡君） 利用についてはですね、これまでは議会バスという名目での購入でございますけれども、今回は福祉バスとしての名目での購入で、利用の仕方は今までどおり、議会も使わせていただきますけれども、いろんな団体の貸し出しという面で利用目的として掲げておりますので、議会が使わせてあげることではなくて、利用できるものは利用してもらうということでの購入でございます。

財源の一般財源ですね、持ち出しがですね、そういう名目で購入するとなると過疎も活用できて町の負担が軽減できるということもありますけれども、利用の仕方についてはこれまでも多目的に利用していますので、これまでと変わらず同じような形態で考えております。

○8番（三澤公雄君）　ここでこだわっても仕方ないんだけど、福祉バスも大小持っていたほうが福祉バスとしての利用価値が高かった。こっちが多目的のバスならサイズ感揃えたほうがいいのかなと思って。あと運転する側は特に議会バスの運転は、僕が聞く限りでは議会バスの運転かいて嫌がられる、この轍がはっきりした道路なんかでは、轍にはまらなくて運転しづらいつて印象が残っているので、次の買い替えのときは気を付けなければいけないって僕の中では思ったんですね。そういう意味でのサイズ感です。

○議長（千葉　隆君）　議会バスじゃなくなるから局長じゃなくて。

○8番（三澤公雄君）　そうですね。はい。

○議会事務局長（三澤　聡君）　利用もですね、議会バス、今までの25名乗りと福祉バスの40人ってあるんですけども、利用団体によっては少人数のところもありますので、それには40人バスを利用するということもありましたけれども、そういう点では25人バスで少人数の団体が利用できるというのが今までもありましたけれども、そういうこともありますので、サイズ感にしては今までのと同じものを購入ということで考えているというところでございます。

○11番（斎藤　實君）　理解します。

○2番（佐藤智子君）　はい。

○議長（千葉　隆君）　佐藤さん。

○2番（佐藤智子君）　これまで使っていた議会バスはもう廃車になってしまうんですか。そとも業者に払い下げるとか、どういうふうに考えているんですか。

○議会事務局長（三澤　聡君）　その辺は町としてはまだ考えていないということでして、実際に、購入の段階でこの議会バスはどういう車両かということを判断しながら売り払いするのか廃車にするのかというふうになると思います。町としてはその辺は考えてないと思います。

○8番（三澤公雄君）　バスのこと以外で質問してもいいの。

○議長（千葉　隆君）　どうぞ。

○8番（三澤公雄君）　広報なんかで話し合っていないんですけども、誌面作りで工夫するときにページを増やしたいとか、すごく窮屈なんですね。これまできちきちで。今回もやる気満々の議員さんが集まった中でですね、たとえばこの号だけは表紙をカラーにしたいとか、この号は特別なページを増やそうとかというときに非常にタイトなんですよ。今回その部分で余裕が見れる予算になっていますかということを先ず聞きたい

（何か言う声あり）

○議会事務局庶務係長（松田　力君）　議会広報の関係の予算につきましては全く同じ積算になっております。部数は町の配布する戸数に応じて積算しているので減っていますけれども、作成できるページ、部数等については昨年と変わらないと。はっきり言って余裕は全くありません。

○8番（三澤公雄君）　これあとからたとえば、町のいろんな事業って事業が増えたときに補正予算はやりやすいけれども、なんか議会に議会の都合で補正予算、ましてやそういったものってやりづらい部分があるんだけど、広報ってこれから主権者教育も含めて、いかに若い人たちにPRするかという意味で、たとえばSNSだとかいろんな活用がってお金がかからなくなるようになるかもしれないけれども、そこまでの研究だとか、あとこれは僕の全く頭の中だけなんですけれども、中学生や高校生にあるページの企画を頼んでいくとかということで、彼ら彼女らにいかに近づいていくかは次の議会議員の担い手づくりだと思っているんです。

だからそういうことで広報活動が充実されていくと思うんですけども、さっき答弁があったみたいなんです、予算があまりにも。やりづらいですよ委員長。歴代委員長。

○11 番（斎藤 實君） 前もって言えばよかったしょ。できあがってからじゃなくて。

○8 番（三澤公雄君） 委員会ではいつも言ってるんだけど。皆さんに知ってもらおうと思って今、発言しました。

○議会事務局長（三澤 聡君） 今、そういう広報委員会の話が出たんですけども、今回は当初予算はほぼこのとおりの要求でございます。これを補正となると、できないことはないと思いますけれども、来年度に向けて広報委員会の中でそのような議論をしていただいて。それで来年度の予算要求に間に合うように議論いただければと思いますけれども。

（何かいう声あり）

○議会事務局庶務係長（松田 力君） あと予算に関して。これは広報の予算だけではなくて、町側の予算もですけども、ある程度を余裕を持たせた予算ということは、やっぱりあまりできなくて、単純に積算としてこういうものにこれだけかかるからこういう予算だと最初から見てもかきと予算としてはなかなか要求してもそれが計上されないのかなと思いますので、今、局長が言ったように、たとえば広報委員会の中で今度はこういうことにトライしてみたいからこれくらいのお金がさらに必要だねってことがきちんとあったうえで積算するということが必要になってくると思います。何となくこういうことをやりたいってこれくらい少し余裕見てくれということだと議会の広報の予算といえ付かないと思いますので、よろしく願いいたします。

○8 番（三澤公雄君） 時間の許す範囲で議会広報の熱さを皆さんに共有してもらおうと思って発言しました。

○4 番（大久保建一君） 年度末で足りなくすればいいの。

○議長（千葉 隆君） ほかにありませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） なければそのほか皆さんのほうからあれば受けてまいりたいと思いますがありませんか。

（「なし」という声あり）

○議長（千葉 隆君） それでは今回の全協はこれで終了いたします。ご苦労様でした。

〔閉会 午前11時43分〕